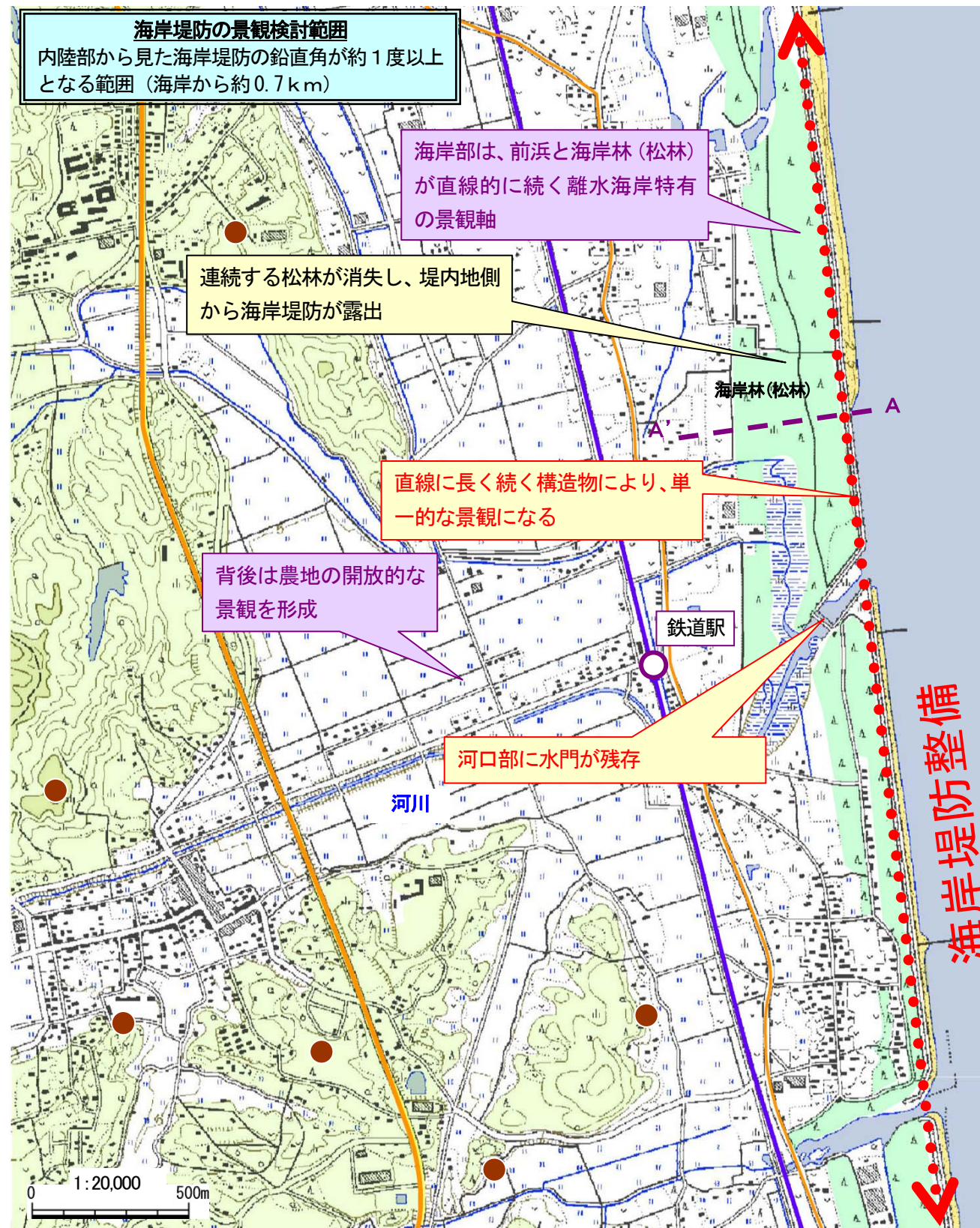


地区特性図



景観特性

- ・内陸の平野部では、起伏がなく広がりのある景観が形成される。海岸部は、前浜と海岸林（松林）が直線的に続く海岸特有の景観軸、その背後は農地や河川の開放的な景観が形成されている。
- ・被災により大きく浸食され、海岸林（松林）がほぼ消失した。そのため、堤内地側から海岸堤防が露出している。

地形基盤と地域の成り立ち

地形断面図（A-A'）

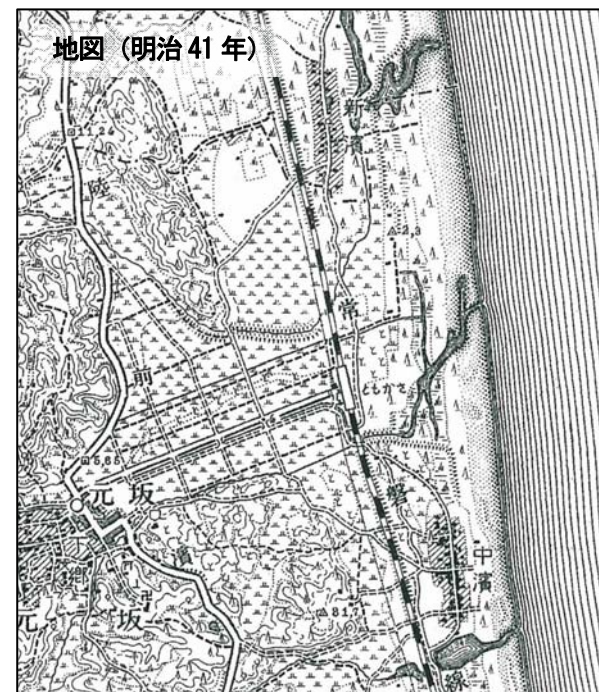


残存した水門の状況



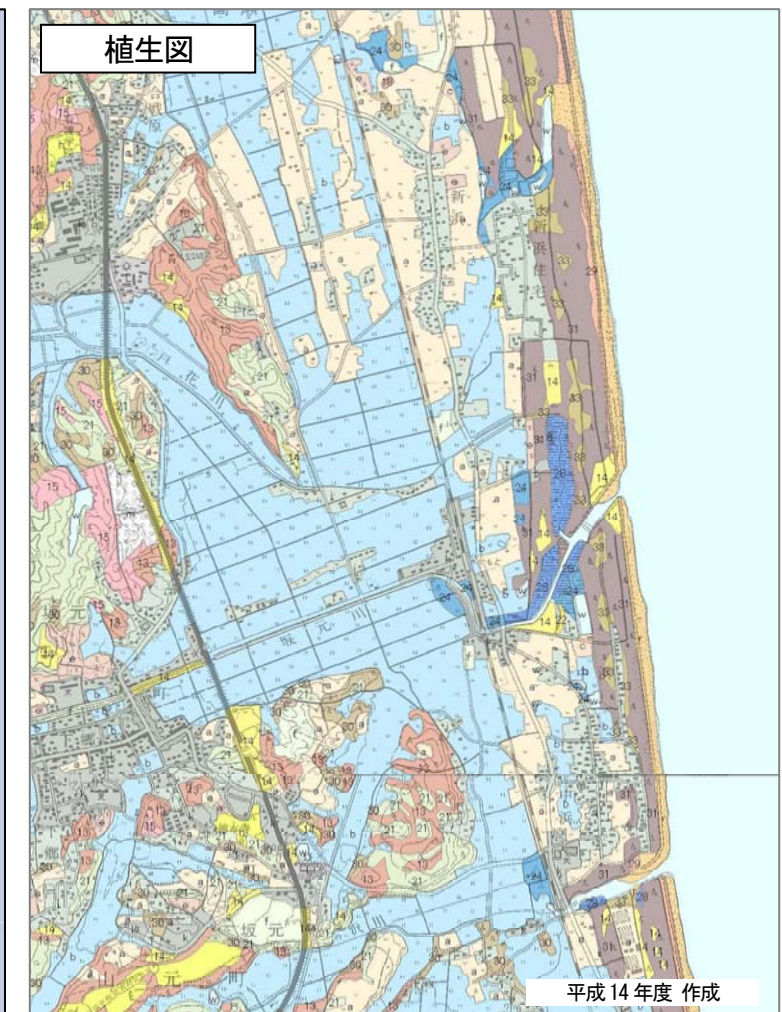
凡例

- 役所
- 神社・仏閣
- 鉄道駅舎
- 主要道路
- 地形による景観特性
- 被災による景観変化
- 施設の景観特性



地形・生態系特性

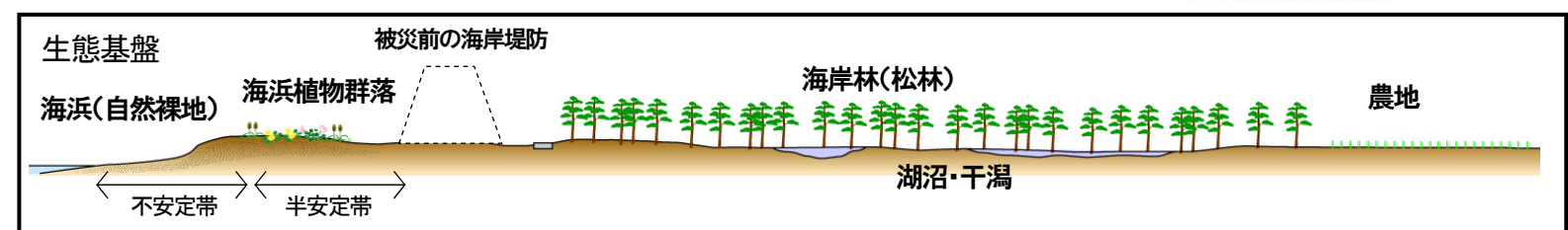
- ・かつての海岸線と現在とを比較すると、海岸線は浸食傾向にある。被災後、内陸部に大きく浸食され、大きく地形が変化した。
- ・長大な砂浜と海岸林（松林）が带状に続く自然性の高い海岸である。また、小河川の河口部や低湿地、潟湖など多様な水辺が存在する。
- ・海浜は砂の移動、潮風等により「自然裸地」となり、陸地側に向かって「海浜植物群落」、「海岸林（松林）」が形成されている。
- ・一帯では、砂浜海岸特有の生態系が見られる。

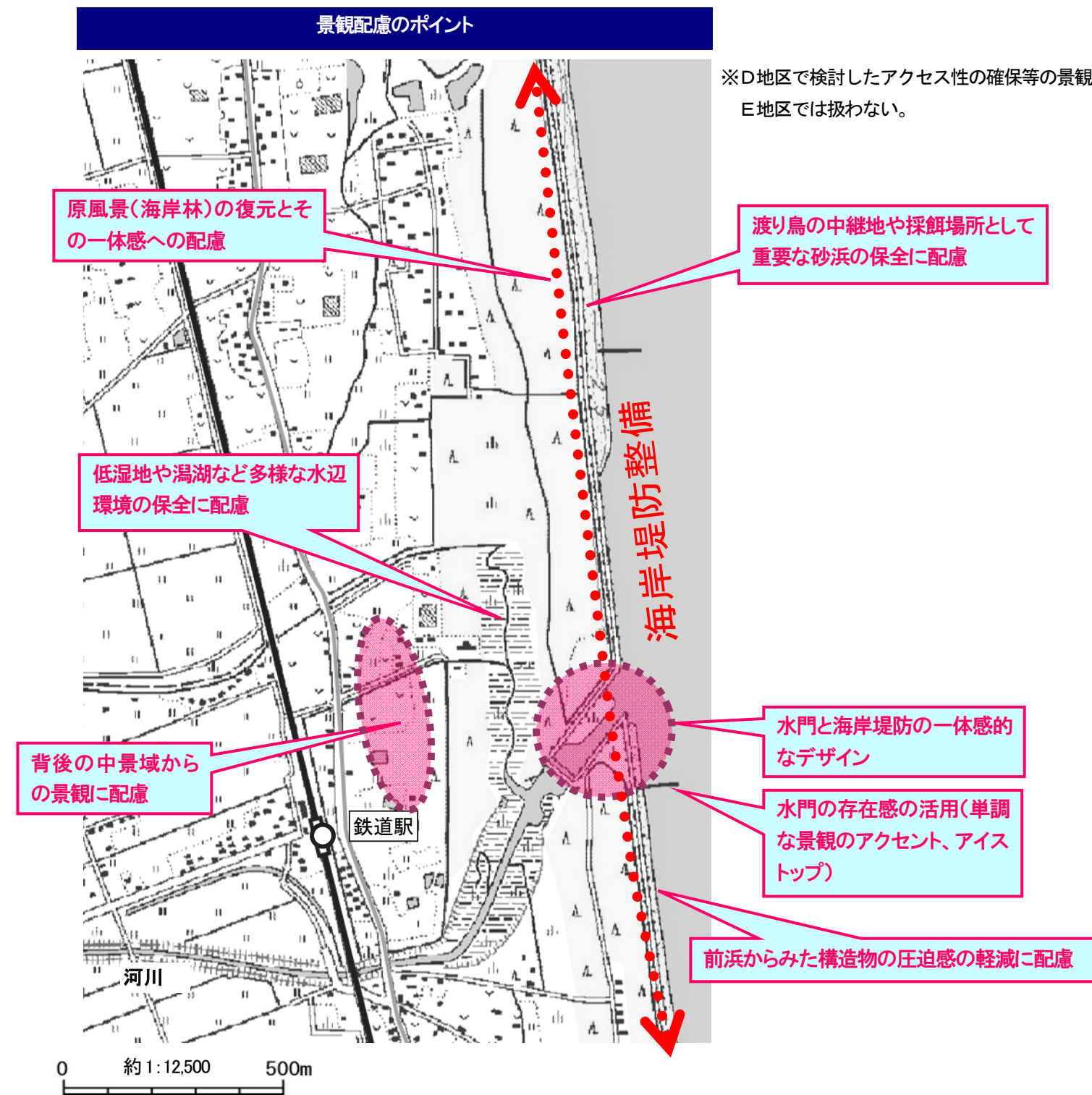


平成 14 年度 作成

- 被災前の海岸線
- - - 被災後の海岸線

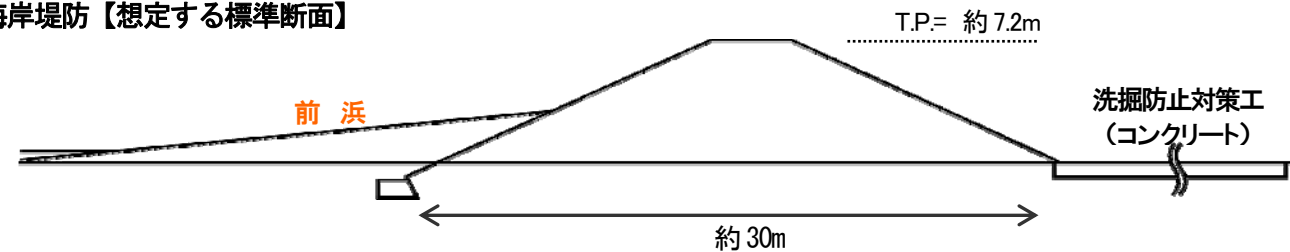
植生図 凡例（抜粋）
凡例色 植生図凡例番号 統一凡例番号 統一凡例名
14.250200.スキ群落 (V)
22.430400.アズマネザサ群落
24.470400.ヨシクラス
31.540300.クロマツ植林
33.540902.ニセアカシア群落





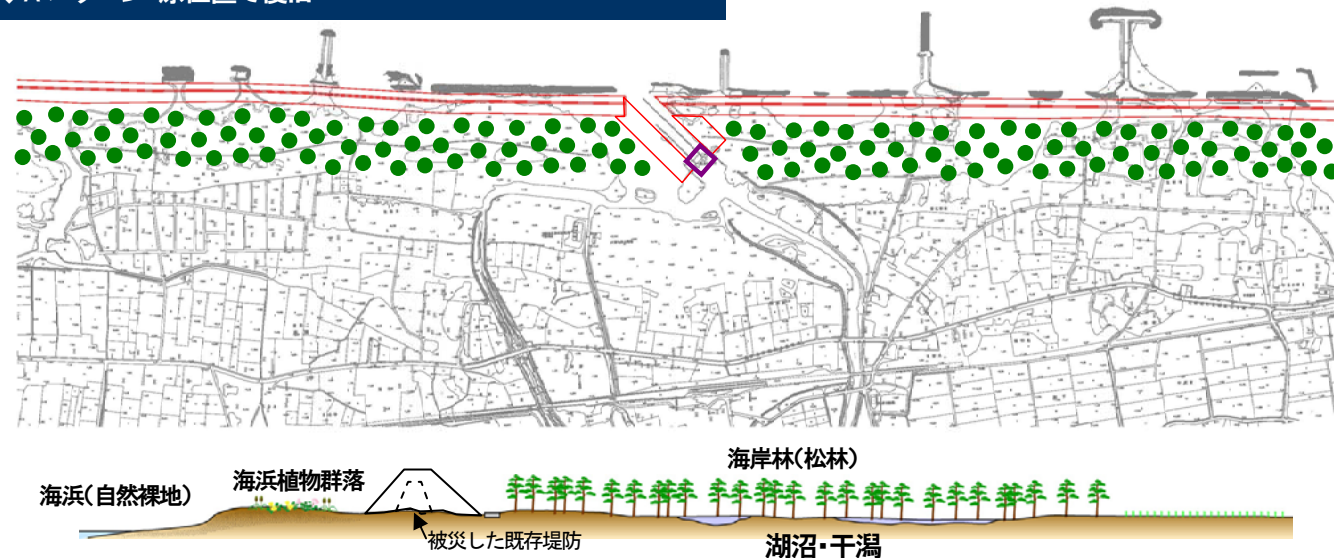
検討条件（施設構造）

海岸堤防【想定する標準断面】

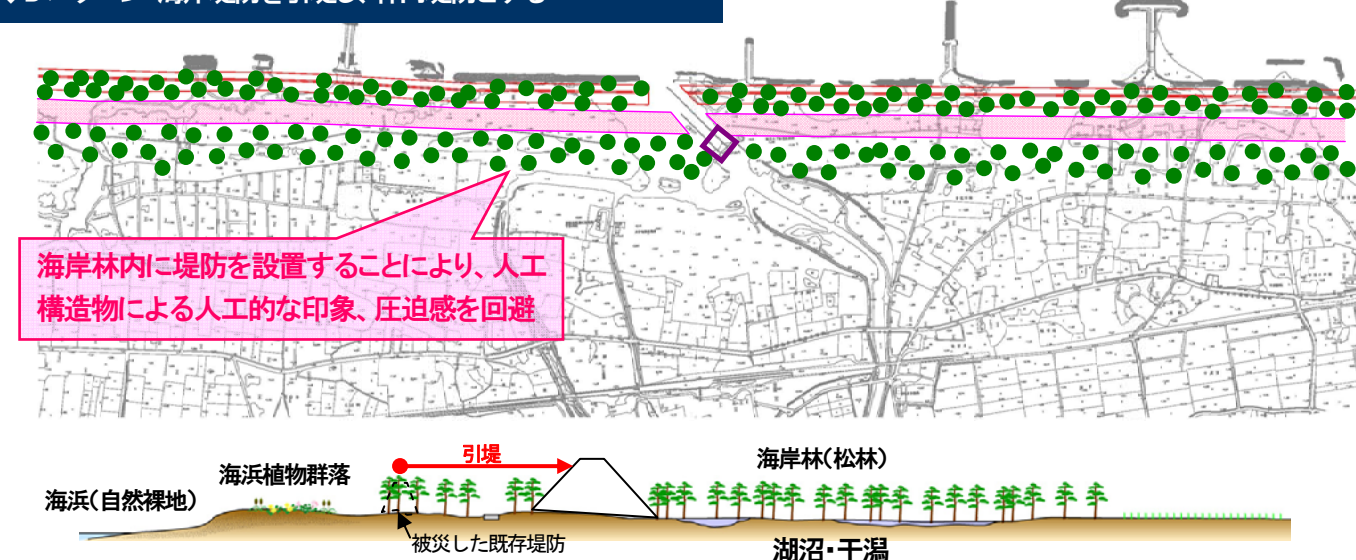


- ・高さ T.P. = 約 7.2m、幅約 30m の大規模な構造物を想定
- ・法面勾配は表裏ともに 1 : 2 を想定
- ・堤内地側法尻に洗掘防止対策工を想定
- ・表裏法面はコンクリート構造

◆A パターン：原位置で復旧

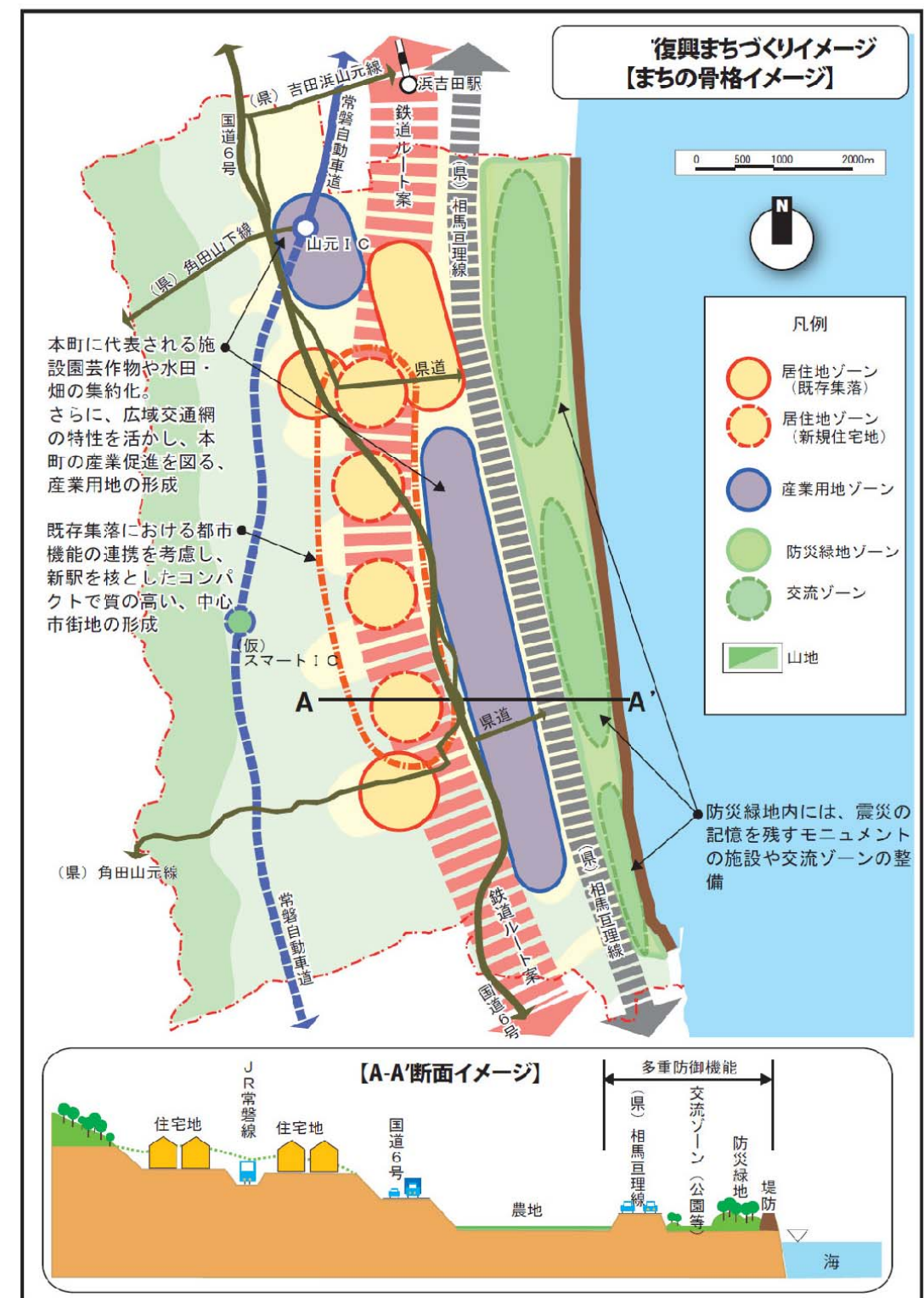


◆B パターン：海岸堤防を引堤し、林内堤防とする

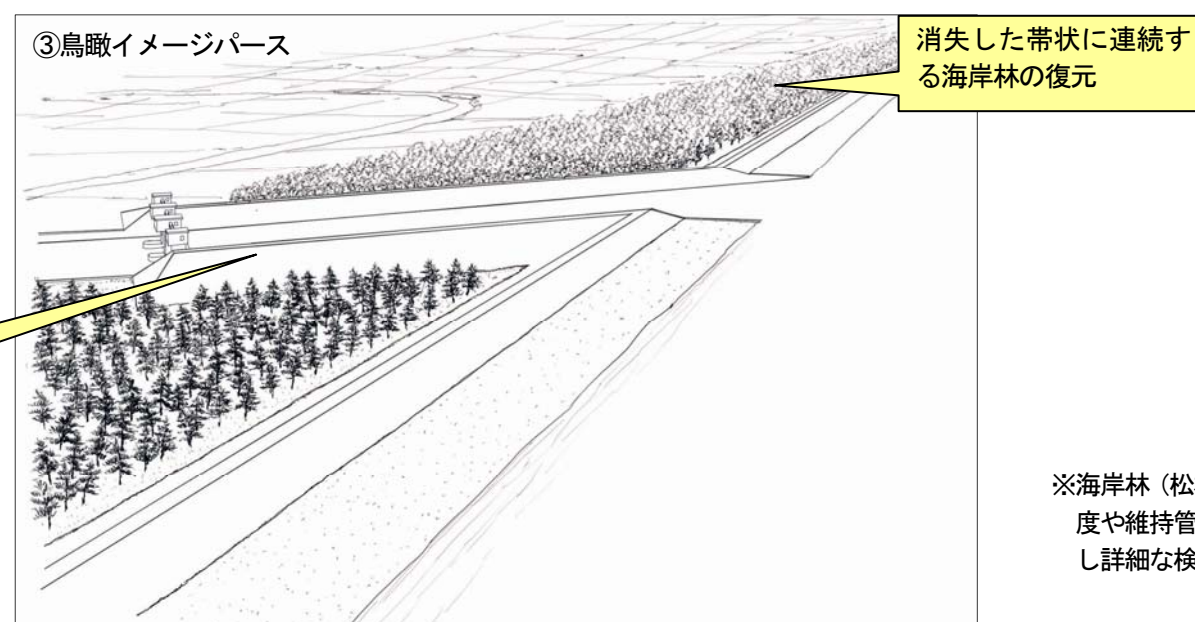
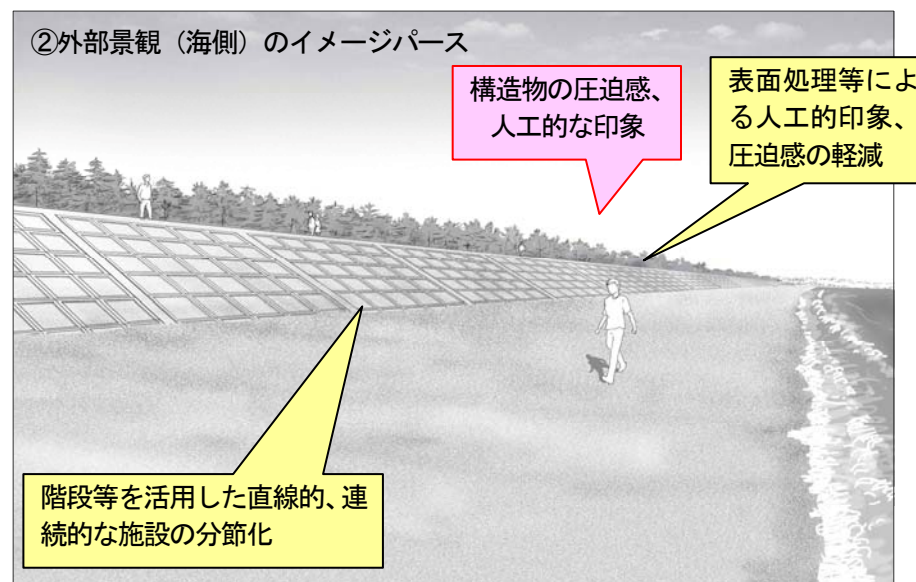
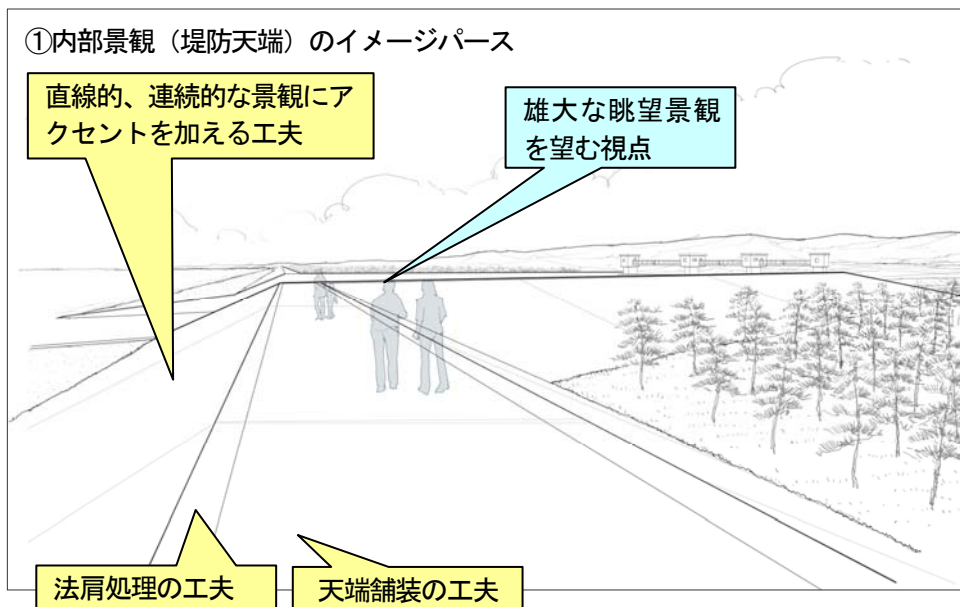
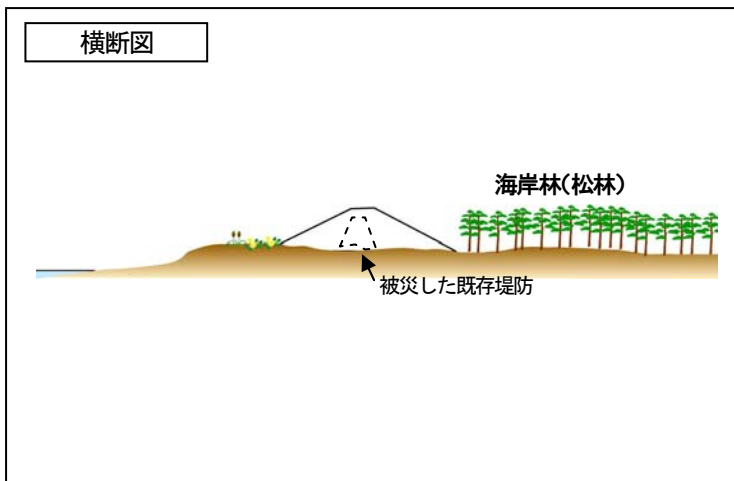
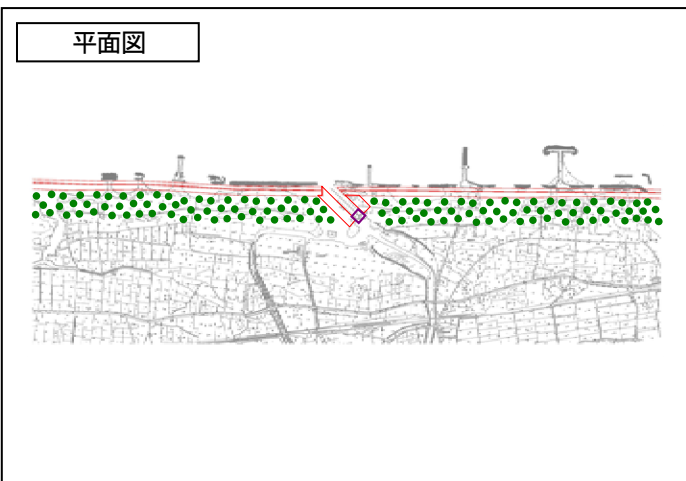
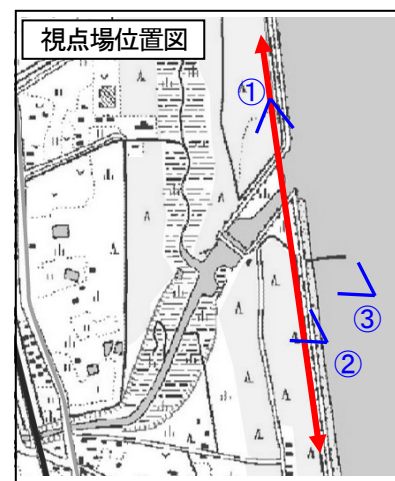


海岸林内に堤防を設置することにより、人工構造物による人工的な印象、圧迫感を回避

まちづくり計画



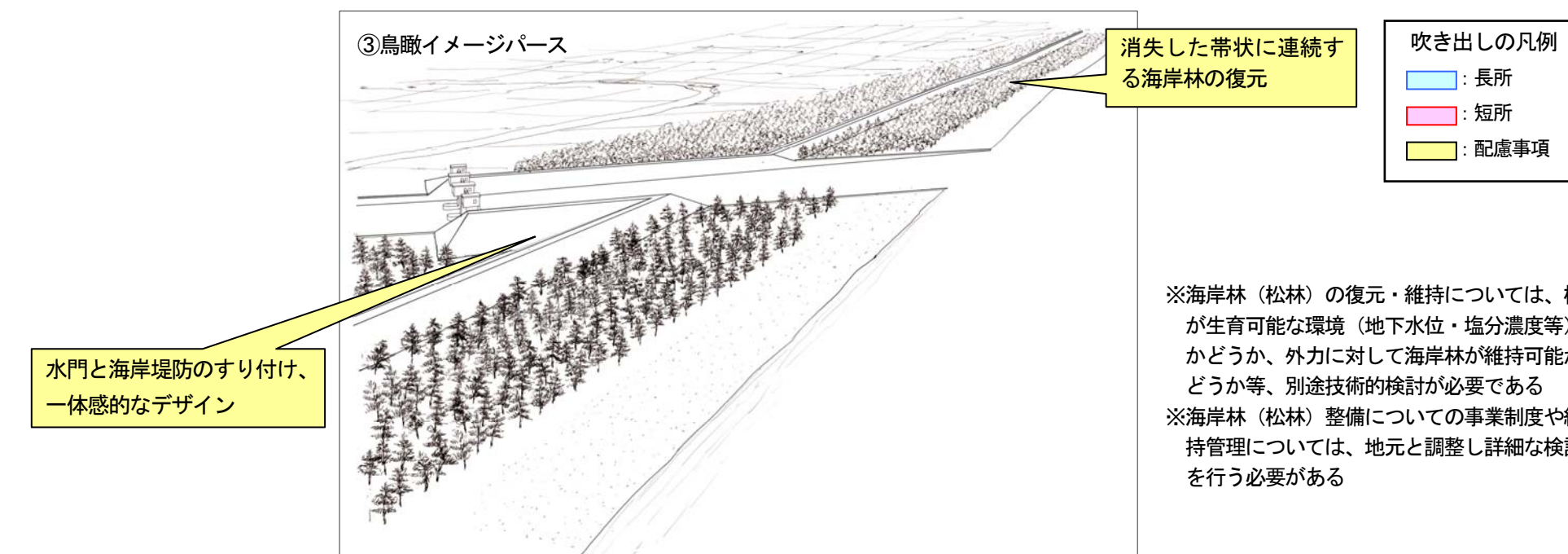
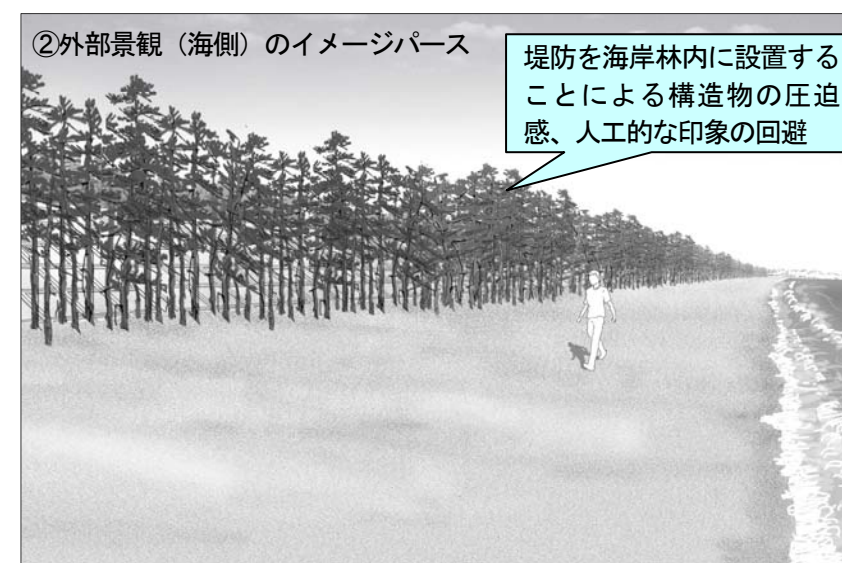
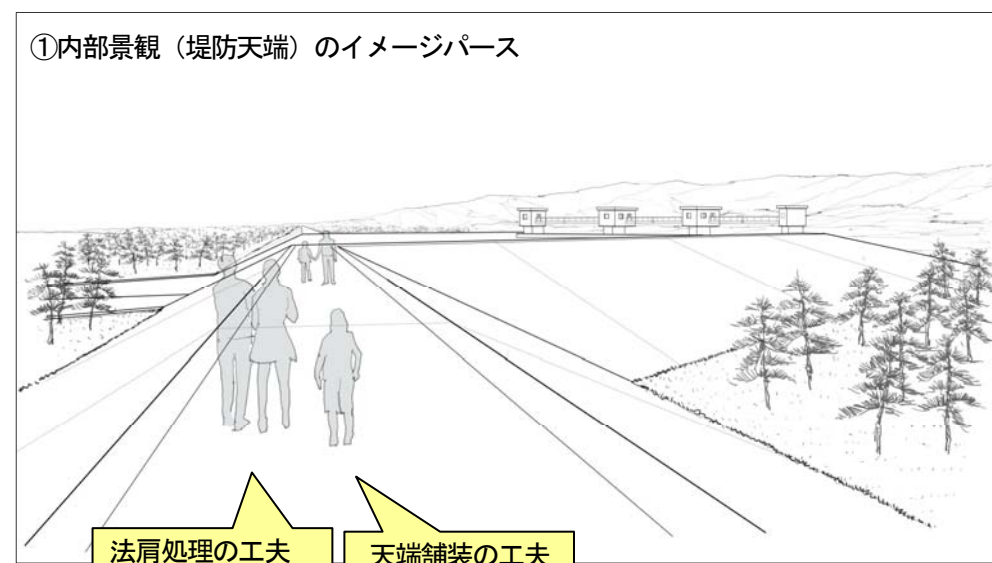
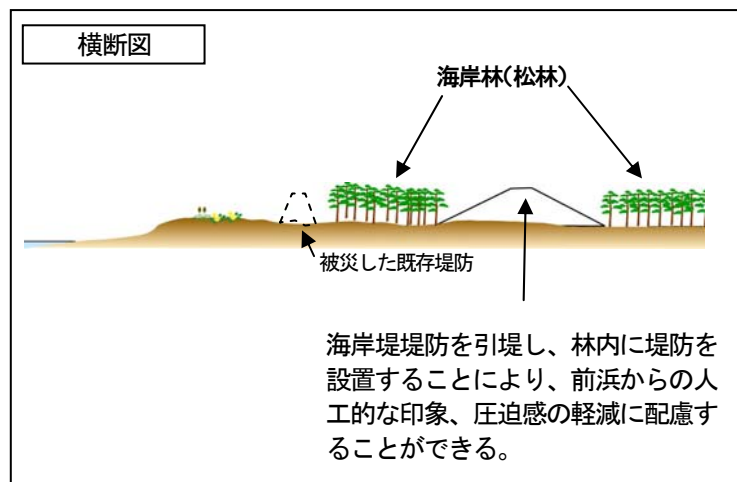
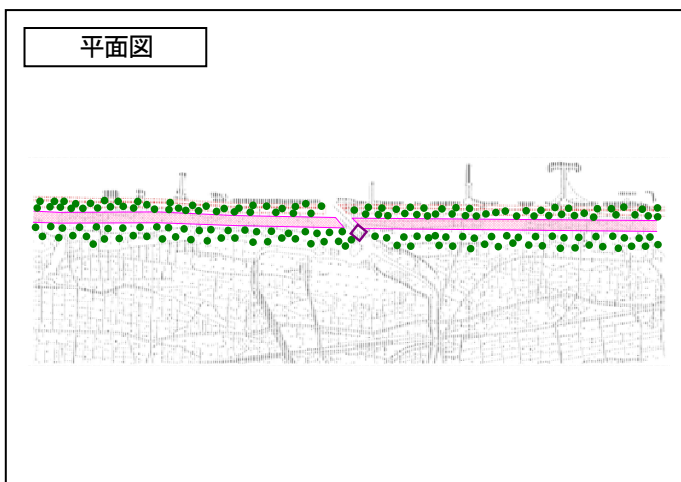
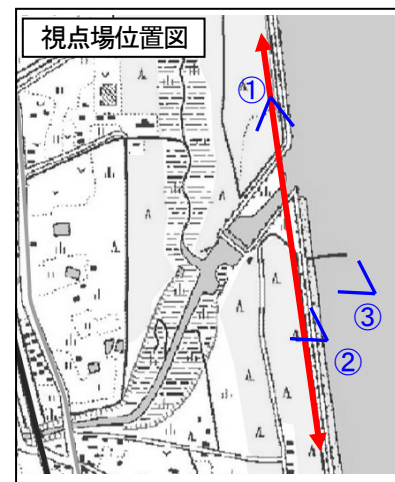
出典：復興まちづくりイメージ



吹き出しの凡例	
長所	短所
配慮事項	

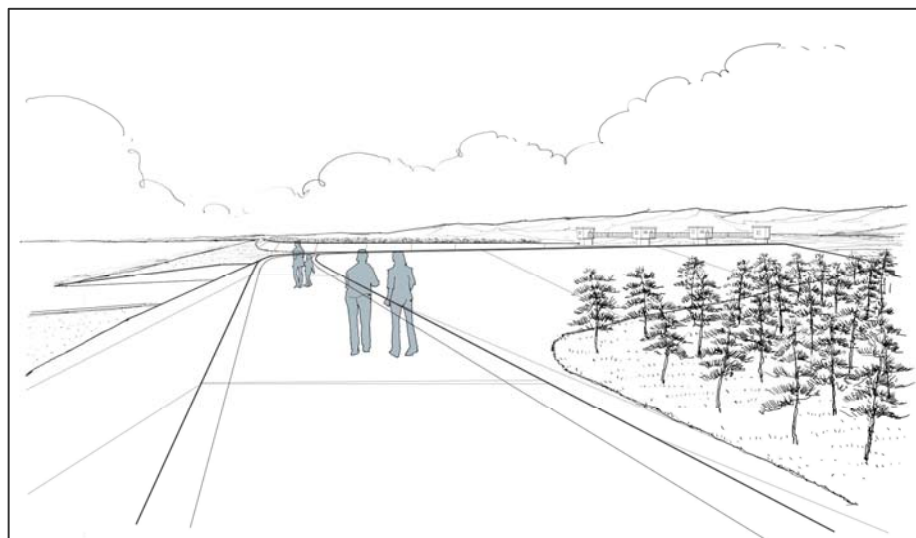
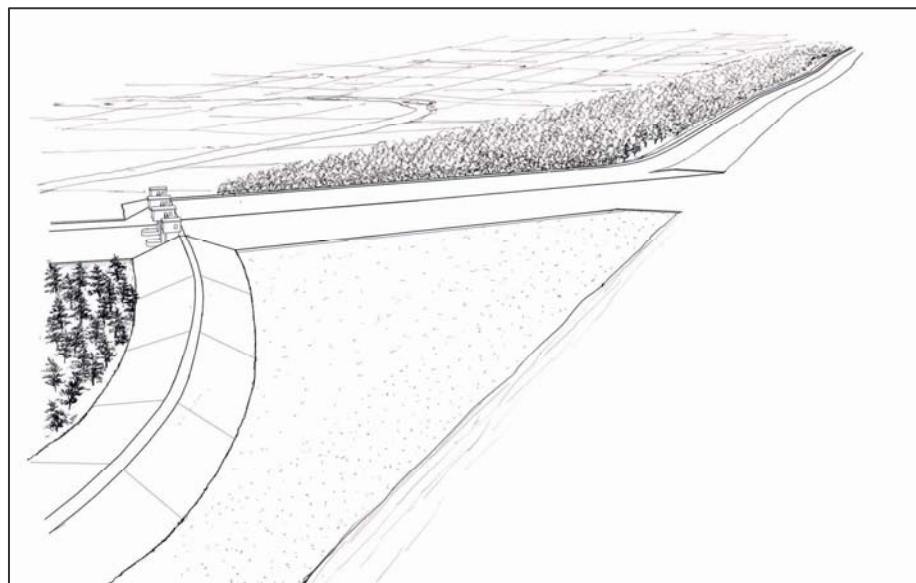
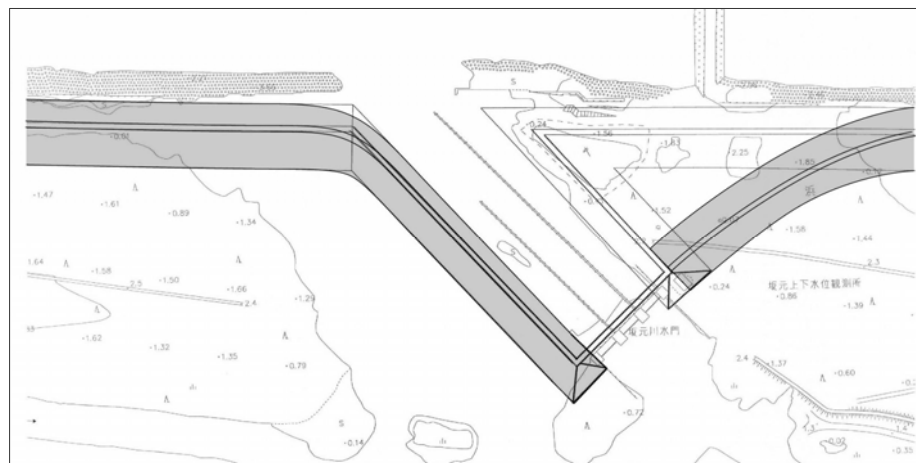
※海岸林（松林）整備についての事業制度や維持管理については、地元と調整し詳細な検討を行う必要がある

特徴・評価	
視覚的景観	・海岸に沿って直線的に連続する構造体が、人工的な存在感を与える。 ・変化点の追加、表面処理の工夫等により人工的な印象、圧迫感の軽減等の配慮が必要となる。
	・連続する砂浜と海岸線の背後にある海岸林(松林)と点在する干潟や湿地との一体的景観に対して、海岸堤防が分断要素となる。 ・連続する雄大な砂浜景観を眺めることのできる新たな眺望視点として、天端の利活用への配慮が必要となる。
地域性	・砂浜、海浜植物群落、海岸林(松林)や点在する干潟や湿地が一体となった生態系基盤に対する海岸堤防の影響を低減させる工夫が必要となる。 ・渡り鳥の採餌場としての前浜の保全等への配慮が必要とされる。
生態系	・前浜等の空間が少なく、気候変動による海面上昇等への対応の余地が少ない。 ・前浜に海岸堤防が接するため、波浪等による施設への外力が大きい。
サステイナビリティ	・原位置復旧のため、新たな用地費等は発生しないとともに、用地取得に係る調整が不要になる。
コスト	



特徴・評価	
視覚的景観	・海岸に沿って直線的に連続する構造体が、人工的な存在感を与える恐れがあるため、被災による地盤の浸食も考慮して引堤を行うことにより、海岸林(松林)の中に海岸堤防を設置し、視覚的な影響を回避している。
地域性	・連続する砂浜と海岸線の背後にある海岸林(松林)と点在する干潟や湿地との一体的景観に対して、海岸堤防が分断要素となりにくい。
生態系	・砂浜、海浜植物群落、海岸林(松林)や点在する干潟や湿地が一体となった生態系基盤に対する海岸堤防の影響は軽減される。
サステナビリティ	・前浜等の幅広い自然空間によって、気候変動による海面上昇等への対応の余地が生まれる。 ・十分な前浜により波浪等による施設への外力の軽減が図られる。
コスト	・引堤により、部分的に民地等の用地がかかることが想定され、用地費が必要となるとともに、用地取得に係る調整に時間を要する可能性がある。

◆A パターン：原位置で復旧



◆Bパターン:海岸堤防を引堤し、林内堤防とする

